

活動事例報告

有賀 元栄（長野県防災士）

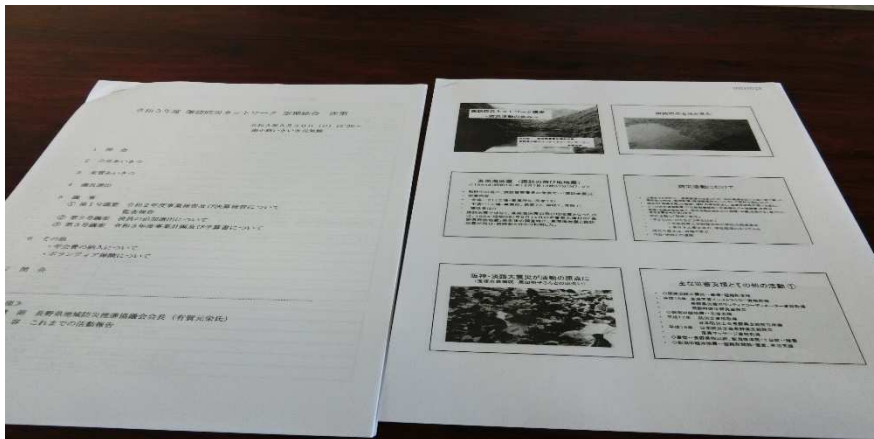
日本防災士会本部会員 長野県地域防災推進協議会（松本大学内）会長

長野県諏訪市に「諏訪防災ネットワーク」が組織されている。自身も学習の場として仲間入りしている。諏訪湖の花火は全国的にも有名、山下 清画伯が描くほどの素晴らしい花火大会ですが、新型コロナ感染拡大で今年はどうなるのか？

5月30日、令和3年度に向けての総会がコロナ感染防止対策をとりながら開催された。総会後に、会員報告として「私の防災活動」を発表する機会を頂いた。阪神・淡路大震災から26年が経過。後期高齢者対象に近々なることを考えると長くも、短くも感じる日々です。

「災害時住民支え合いマップ作成」「町指定全避難所データベース化」「一般・福祉避難所開設運営実践訓練」「保育園から高齢者までの防災講座」の話をしました。この6月から「災害時に避難しない人を0にする」する運動への取り組みも説明させていただきました。

防災士と云えど、自然災害に立ち向かうことはできません。我々防災士がいまなすべきことは *要配慮者の避難を速やかにさせる* 避難所開設・運営の支援 *被災者への生活支援が最も優先される行動ではないか。「烏合の衆」にならないために、日々の学習と訓練が更に必要だと思う。京都の高校生防災士が問いている設問に挑戦し、自身を見直しました。



「忘れていませんか 東日本大震災」の本の紹介